

花の昼

今瀬剛一

ふはと鳥来て紅椿翳りけり

立たされし記憶廃校枯れにけり

血圧体温平常たんぽぽも咲けり

いづれ涙拭くハンカチの花咲けり

桐壺藤壺玉鬘まで芽吹くかな

上げ潮の川幅を打ち余花の雨

人の句がみなよく見えて花の昼

鉛筆が落ちて弾んで朧の夜

さくら散り庁舎も人も古りにけり

踏破せし山ばかりなり花りんご

咲き残る牡丹は思ひ出し笑ひ

若葉雨なり駅までを軒づたひ

藤房の全貌見んと後退る

ハンカチの木の花涎つうと垂れ

よろこびや朱欒を両手もて受けて